

日本海の雄大な海岸景観と 大自然を味わえる近代遺産・ 増毛山道と石狩浜益のフットパス



小川 浩一郎 (おがわ こういちろう)
 (株)ジオ (THE-O) 代表取締役



1980年札幌市生まれ。2001年エコ・ネットワーク代表代行、13年北海道科学大学客員准教授。札幌市南区常盤で育つ。『フットパス』をキーワードに市内、道内、国内で普及活動、ウォークイベントを実施し、ワールドウォーカーとして世界の「フットパス」を歩いている。「歩く」ことを通じて自然あふれる都市・札幌を観光客へ伝えるべく奮闘中。著書に「北海道フットパスガイド①」「北海道フットパスガイド②」。

石狩を縦断できる長距離フットパス

前号ではえりも町の“猿留山道”をご紹介しましたが、北海道内には山道が各地にあります。有名どころでは猿留山道のお隣「様似山道」、イザベラ・バードも通り、噴火湾の絶景を著書で語っている「礼文華山道」、石狩・厚田から浜益方面へ抜ける、知らなければ読めない「濃^{さるる}昼山道」、そして濃昼山道と合わせて北海道遺産になっている「増毛山道」があります。

そして石狩市の最北・浜益区では数年前からフットパスを設定し始め、何度かイベントも開催される地域になりました。石狩市は平成17年に厚田村と浜益村と合併し、南北に67kmと長く、その海岸沿いは絶景や夕日スポットとしても広く知られています。石狩では厚田や浜益も含め複数のフットパスコースが設定されていて、それらや山道をつなぐことで石狩を縦断できる長距離フットパスとなる可能性を秘めています。今回はその中でも浜益のフットパスと増毛山道にスポットを当ててみます。

増毛山道は究極のフットパス

北海道の名付け親である松浦武四郎が「北海道第一の出来栄である」と評した増毛山道は、増毛町別^{べつかり}^{おふゆ}^{ポロ}から雄冬山や浜益御殿を通り、石狩市浜益区幌^{ポロ}まで続き、途中の岩尾分岐からのルートも含めると約33kmに及ぶ長距離山道です。山道の多くの部分が暑寒別天売焼尻国定公園になっているので、北海道らしい大自然やところどころで歴史的遺跡を感じながら歩けます。

山道開削に当たっては、江戸幕府が資金を出して作られたものではないのが驚きです。マシケ場所（漁場）の請負人だった伊達林右衛門が私費で開削したものです。現在の石狩や増毛の漁場同士の連絡等を容易にする目的もありましたが、当時ロシアが樺太へ進出していることに脅威を感じた江戸幕府が、松前や函館から兵員の輸送や情報伝達を確実にするために開削させるといふ思



幌灯台から見た幌集落と増毛山道方向



惑もあったようです。なんと現在の価値で1億7,000万円が投じられ、開削されたという試算もあります。しかし道の険しさもあって増毛山道は使われなくなってしまい、昭和56年の国道完成で役割を終えました。

時が経ち、多くの人たちが増毛山道を忘れ、道も廃れていきましたが、現在の「増毛山道の会」の有志の方たちが復元を始めます。実際に歩くとよく分かりますが、背丈を優に超えるササの中で道を探しながらこの長距離区間のササ刈りを行いました。ササを刈る場所まで行くだけでも数時間、時にはテントで寝泊まりしながら増毛山道復元の情熱を胸に皆さん手弁当での活動でした。今では道幅も広く、しっかりとした道標もあり、ササ刈りも完璧に近い状態です。北海道遺産にも選定され、増毛山道やこの活動がいくつも賞を受けました。近代遺産として北海道に住む私たちが後世に残していかなければならない「歩く道」ではないでしょうか。

現在は遭難防止等により一般開放は見合わせられています。増毛山道の会が開催する年に数回あるイベント時には、実際に歩くこともできますので、問い合わせてください（☎0164-56-0003）。増毛山道の会事務局いわく「増毛山道は究極のフットパス」とのことでした。そのとおりだと思います。

フットパスらしいフットパスが魅力の石狩浜益

浜益区幌まで増毛山道で到達し、その後は浜益にあるフットパスコースを利用することで楽しみながら歩くことができます。幌地区をぐるりと周回するルートは、旧市営牧場や果樹園付近を歩くことで、自然の中を歩く増毛山道とはまた違った歩きを楽しめるでしょう。さらに距離も8km程度で山道のようなアップダウンも多くありませんので、子どもから高齢者まで歩くことができます。旧市営牧場からは石狩湾や対面の積丹半島まで見渡すことができます。元は牧場だったこともあり、高い

木々などもほとんどなく、眺望が効くので海と空の解放感を味わいながら歩けます。幌地区には果樹園もあるので、季節の果物を味わいながら歩くのもいいでしょう。時期が合えば北海道で4番目に高い幌灯台を見学することもできます。

浜益温泉にも周回できるルートがあり、ここでは幌とはまた違った景観を味わえて楽しめるポイントのひとつです。こちらは一部を除きほぼ平地で秋におすすめのルートです。浜益温泉周辺は稲作が盛んで、秋になると周囲を黄金色の稲穂が一面覆い尽くします。さらにおもしろい形をした黄金山がルート上のほとんどの箇所で見られます。そして浜益川には秋になると多くのサケが遡上してくるため、川を埋め尽くさんばかりの秋の風物詩にも遭遇できることもあるでしょう。

浜益区では地元主催で、年に数回フットパスのイベントを行っていますし、それとは別にエコ・ネットワークでも実施している地域です。美しい海岸景観や田園風景、そして美味しい果樹に海産物と地域に触れるフットパスらしいフットパスが魅力です。

本場にも負けない素晴らしい長距離フットパス

さらに欲を言えば、点在する集落同士をフットパスでつなげることで、増毛山道からの延長線、そして濃昼山道へと続いていきます。そうなれば何年も前から提唱している「北海道の歩く観光スタイル」が、札幌を起終点として可能になるのではないのでしょうか。とても1、2日では札幌～増毛間は徒歩で移動はできません。各地域のフットパスや山道を通ることで、それぞれの地域の魅力や歴史を体感し、絶景を味わいながら楽しめます。何度も本場イギリスのフットパスを歩きに行っていますが、本場にも負けない素晴らしい長距離フットパスの資質十分です。そんな期待を込めて浜益と増毛の歩く道を紹介いたしました。



道標も完備されていて、道幅も広く歩きやすい



旧市営牧場から見た石狩湾の景観